

平成22年度小・中学校研究主任会Ⅱ

# 土佐町小学校における 校内研究の進め方

土佐町小学校 研究部

# 土佐町立 土佐町小学校

平成21年度に5校が統合(172名)

同居型小中連携校

スタート！

したものの...

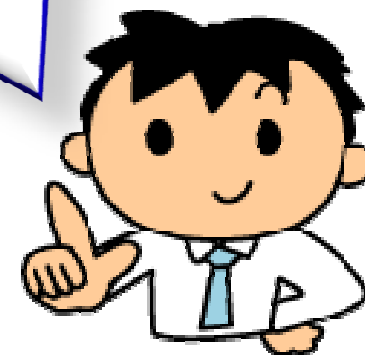
まだまだ、発展途上中！

どうぞ気楽に  
見て下さい。



# 研究テーマ

別紙資料1「土佐町小 研究構想図」を  
参照してください。

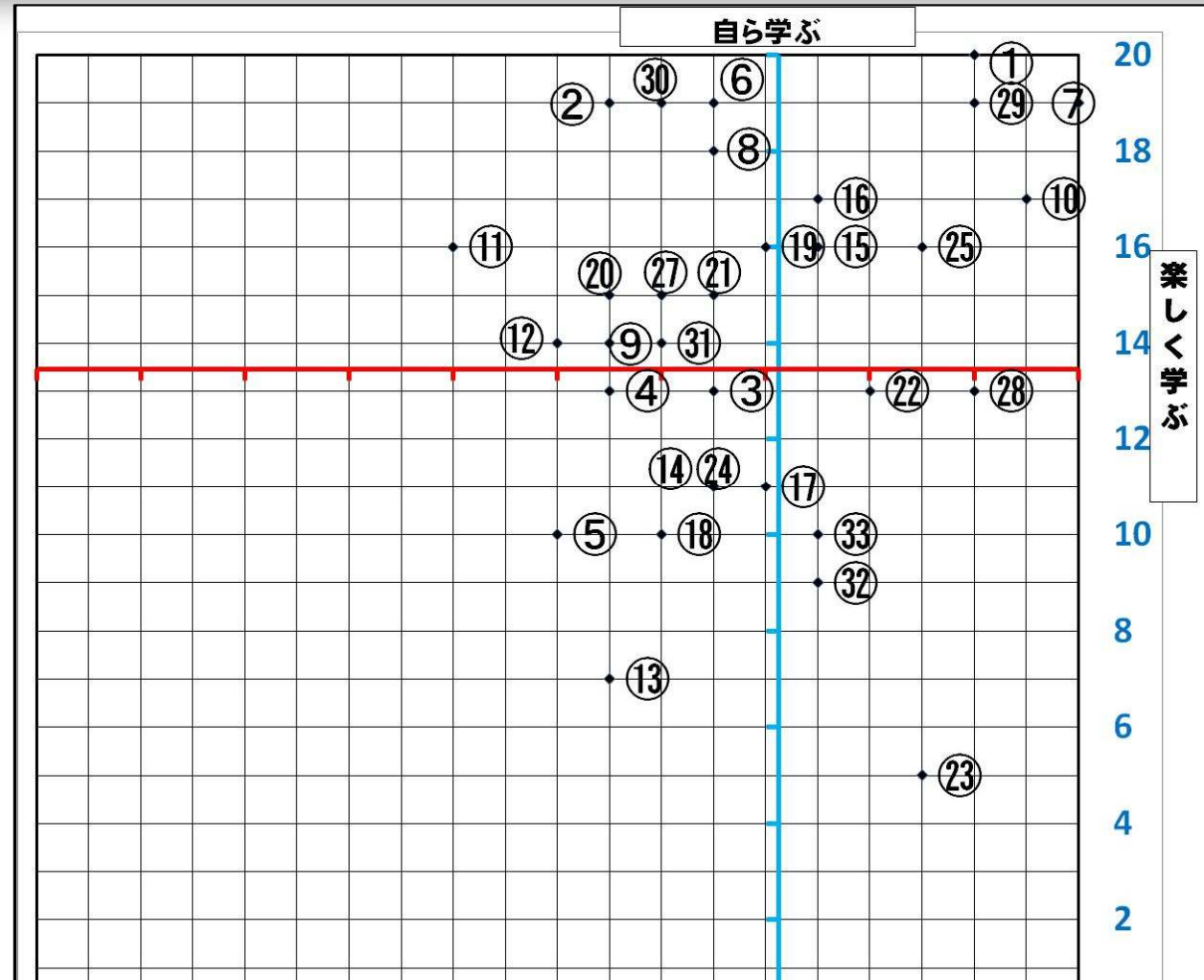


## 支援サイクルに基づいた研究の取組



R

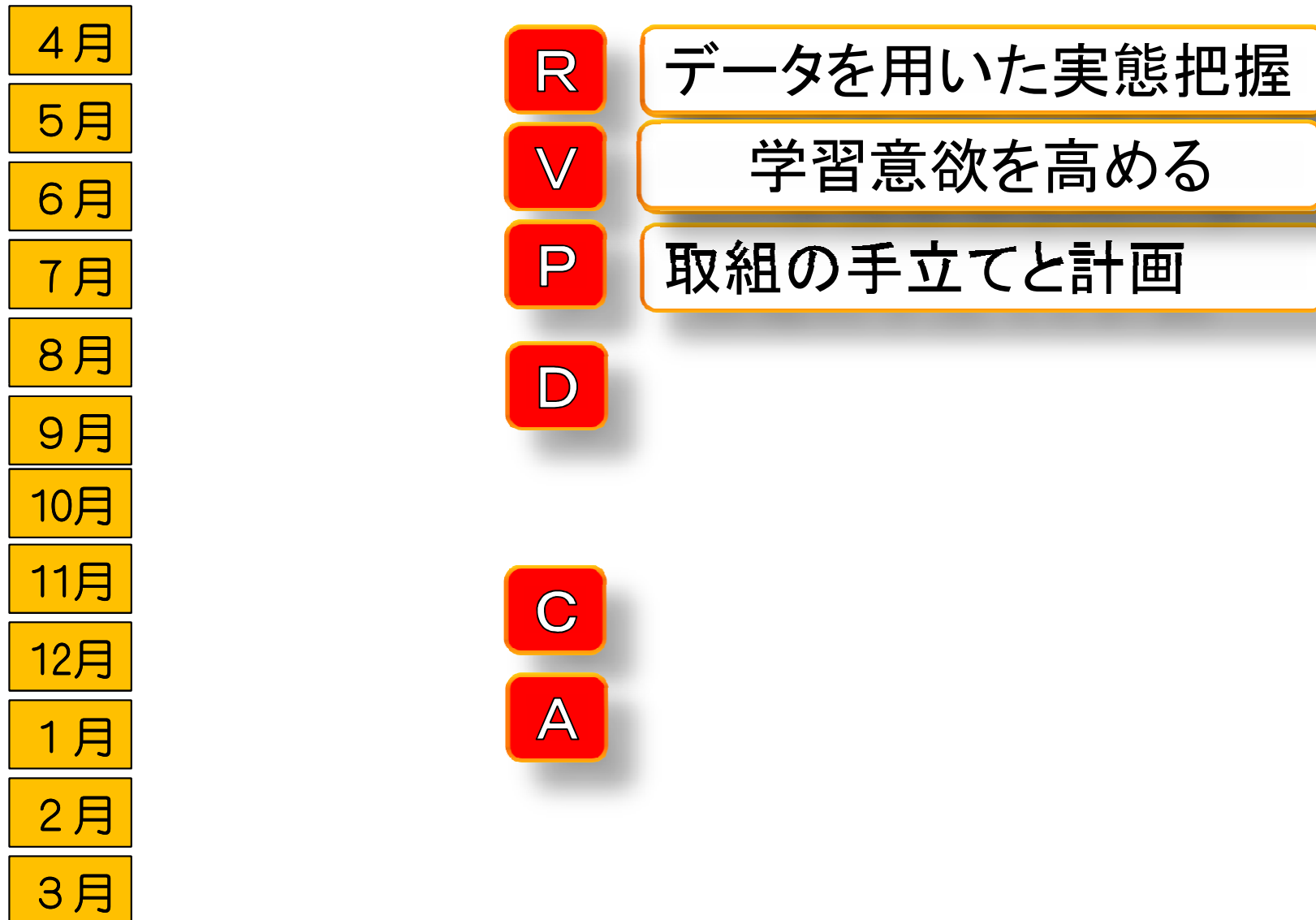
## 数値データを用いた実態の把握



V

児童の学習意欲を現状より高める

## 支援サイクルに基づいた研究の取組



## 土佐町小学校「学びのスタンダード」

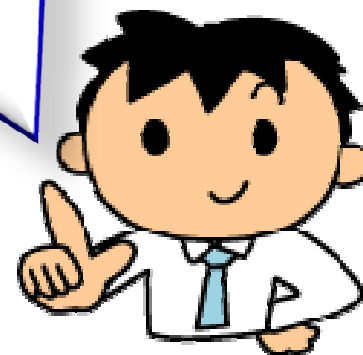
| 学年  | 項目 | 授業の組み立て                 | 学習環境<br>(学習形態)  | 児童同士のかかわり                                  |                                |                                  |                                                      | 教師と児童との<br>かかわり<br>(発話)       |
|-----|----|-------------------------|-----------------|--------------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|------------------------------------------------------|-------------------------------|
|     |    |                         |                 | 自分の考えを持つこと                                 | 友達に自分の考えを伝えること                 | 友達の考えを聞くこと                       | 友達の考えから<br>自分の考えを振り返ること                              |                               |
| 低学年 |    | 児童が学び合うことを必要と感ずるような課題設定 | ペア              | 1年<br>意思表示ができる姿<br>(表情・つぶやき・挙手)            | 1年<br>ペア(となり)の人に言う姿            | 1年<br>うなずく、わかりました<br>など反応しながらきく姿 |                                                      | ほめる<br><br>認める                |
|     |    |                         |                 | 2年<br>ワークシートに書くことができる姿                     | 2年<br>(ペア・班・全体に)書いたものを伝える姿     | 2年<br>自分と違う意見を最後まで聞く姿            |                                                      |                               |
| 中学年 |    | 自己決定場面                  | ペア→<br>4人組      | ノートに自分の考えを書く姿<br>(最低でもイエスorノーと意思表示ができる)    | 理由、図や絵で分かりやすく伝える姿              | 友達の意見に対し、説明や質問する姿                | 同じか反対か判断して<br>もう一度考え直す姿                              | 価値のある発言をほめる<br><br>教師から全体に広げる |
|     |    | 学び合い                    |                 |                                            |                                |                                  |                                                      |                               |
| 高学年 |    | 学び合い・学習の振り返り            | 班(4人)<br>(ペア也可) | 自分の考えに根拠を持ち、伝えるために必要な事柄を整理する姿<br>(ノートやシート) | 相手の反応を見ながら言葉を選んだり資料などを活用して伝える姿 | 相手の反応を見ながら聴く姿                    | 自分の考えと友達の考え、学び合ったことを自分の言葉でノートやワークシートにまとめたり、振り返ったりする姿 | 児童同士をつなげる                     |

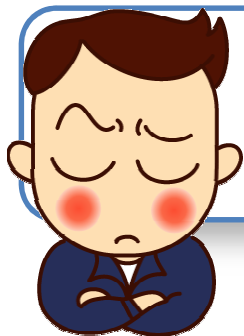
P

## 土佐町小学校「学びのスタンダード」

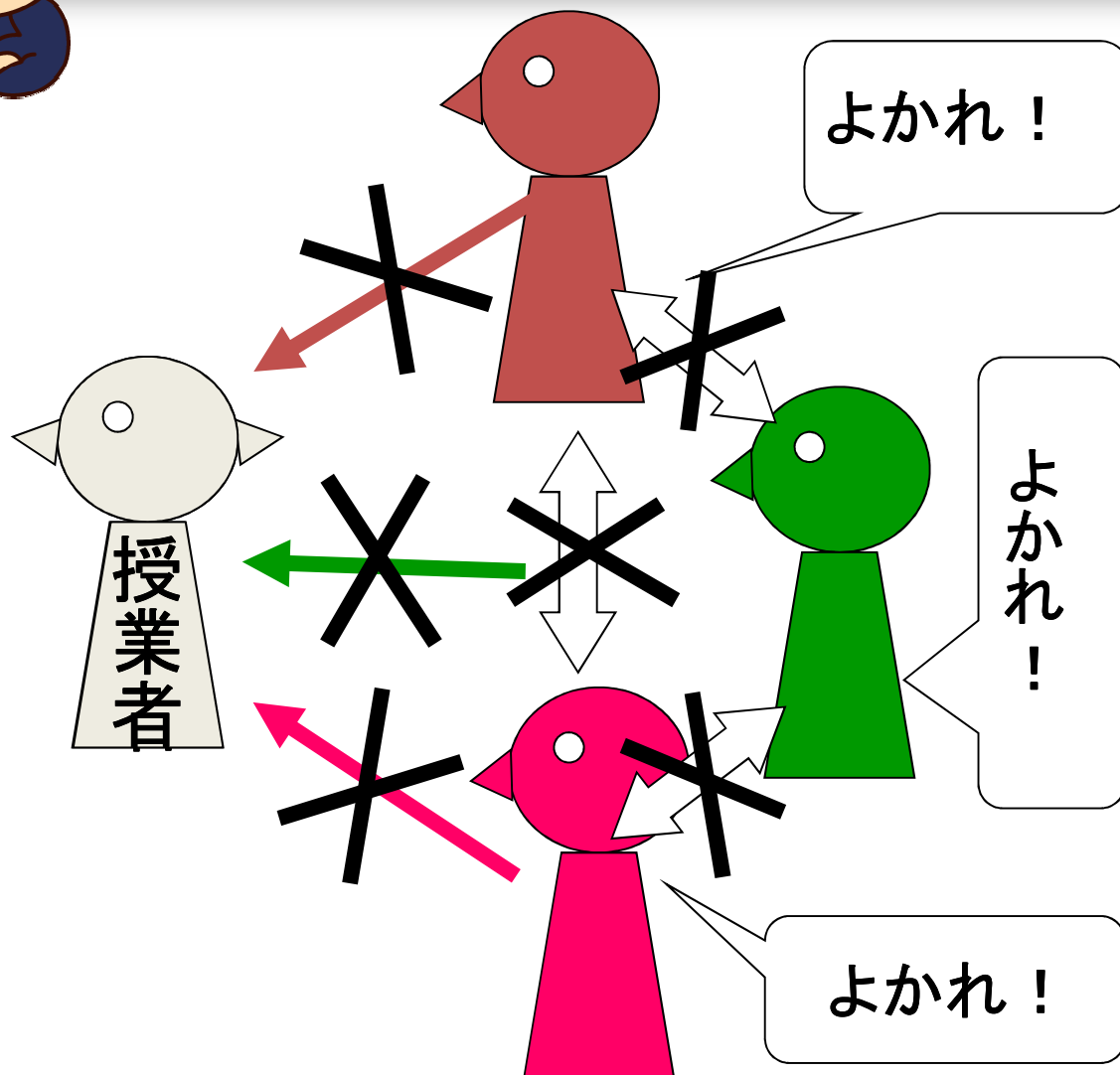
別紙資料1

「学びのスタンダードにそった展開例」を  
参照してください。





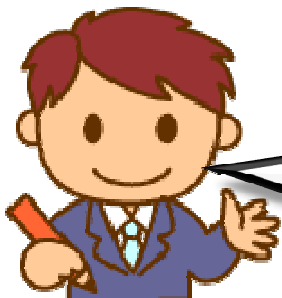
## 授業者に対して「よかれ」と思う、 個々の「思い」は大切です



しかし、その「思い」が、  
授業者にとっては、混乱を  
招く種になることも……

P

## 土佐町小学校事前研の持ち方



**授業者の展開の意図に沿って、助言  
する形式の検討会**

- ① 授業者は、参観する視点について授業の意図が伝わるように説明。
- ② 授業者が検討して欲しい課題や助言を求める点を述べる。
- ③ 参加者は、検討課題に対し、授業者の意図に沿って、助言を行う。

P

## 土佐町小学校授業参観の仕方



### ブロックごとに視点を決めるの参観

授業の組み立て

4つの事柄が設定  
された組み立て

学習環境

本時のねらい

学び合いの形態

学び合いに入る  
タイミング

児童同士の  
関わり

言動や表情から、  
児童同士は  
学びあえていたか

教師と児童との  
関わり

児童に対する発話

具体的な言葉は？

P

## 討議の焦点化・活発化を図る



②参観した視点について「良かった点」と「改善点」を話し合う。



①できたこと、できなかったことを述べる。

⑤授業者は、出された代案から「やってみたいもの」を選択し、述べる。

③「良い点」を児童を主語に具体的に話をする。



④「私はこうする」と具体的に提案



P

## 結果の掲載



2010年度 土佐町小学校 研究通信  
2010. 6. 8 NO.2

全教員、  
一回の公開研  
究授業

全二十八回を予定

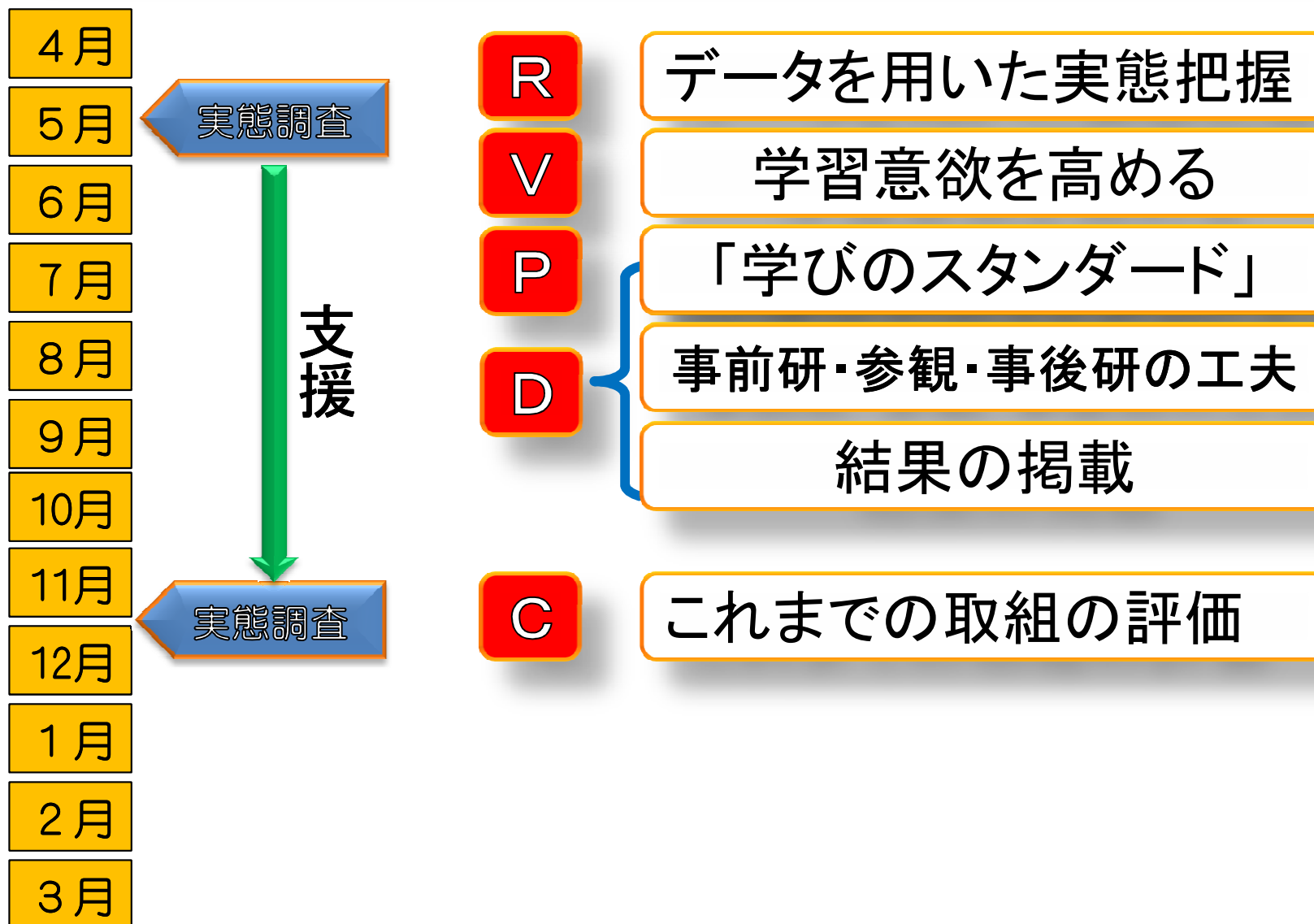
### 事後研の記録

|                             |       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業<br>の<br>組<br>み<br>立<br>て | 授業者より | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「手品師はこのあとどうしますか」という二択にはしなくなかった。人の心はそんなに簡単に割り切れない部分を数値化することで表したかった。</li> <li>・「手品師に後悔はなかったか」と問い、「後悔がない」と答えるならば、「なぜ、そんなに悩んでいたのにすっきりできたのだろう」と問うことで手品師の誠実な心情を気づくようにした。しかし、実際は「後悔している」という意見も見られたので、「誠実」というねらいにはまだ迫れないと思い、方向転換をした。</li> <li>・自分の意見を出しづらいという児童の実態から、手品師の心の中をあえて一つにまとめるように指示をすることで、話し合いを喚起するようにしたが、実際それで良かったのかお聞かせ願いたい。</li> <li>・学び合いを2回入れた。ただ、2回目の学び合いをさせる時間が遅かった。</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                             | 参観者より | <p>良い点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・途中で物語を切ったのが良かった。</li> <li>・心の中を数値化しマグネットで見せることによって心の中を可視化することができ、話し合いをすすめる上で有効だった。</li> <li>・感情線を利用することで考えの位置づけができて有効だった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                         | <p>代案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・N君の大劇場という発言をまとめずに理由を聞いて周りの子の投げかけると良かった。</li> <li>・最初・中間・最後の心の変化（軌跡）が残る工夫があれば良かった。</li> <li>・男の子と劇場のお客さんのどちらがより手品師を求めているかを比べてみると良かった。</li> <li>・最後のところ、1時間で終わらずために、「どうしてこうしたんだろうね」と聞くと良いかも。</li> <li>・導入で約束について考えないでいきなり「手品師」に入っては、ワークシートに書く時間をもう少し多くして理由を明確してから感情線を利用する。</li> <li>・はじめから2時間扱いにする。</li> <li>・一時間扱いにするなら活動4では、「やっぱり言えたのはなぜか」という課題を提示し、自分の決断に後悔がないことを押さえたい。</li> <li>・最初から一つに意見をまとめさせ</li> </ul> |



成果と課題を全体で共有するのだ

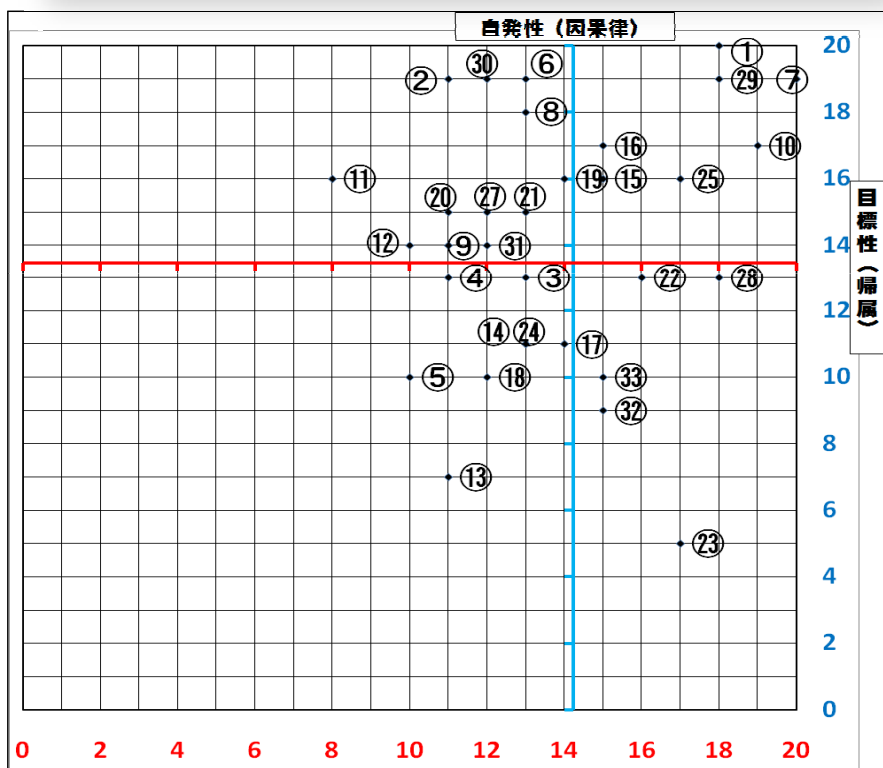
# 支援サイクルに基づいた研究の取組



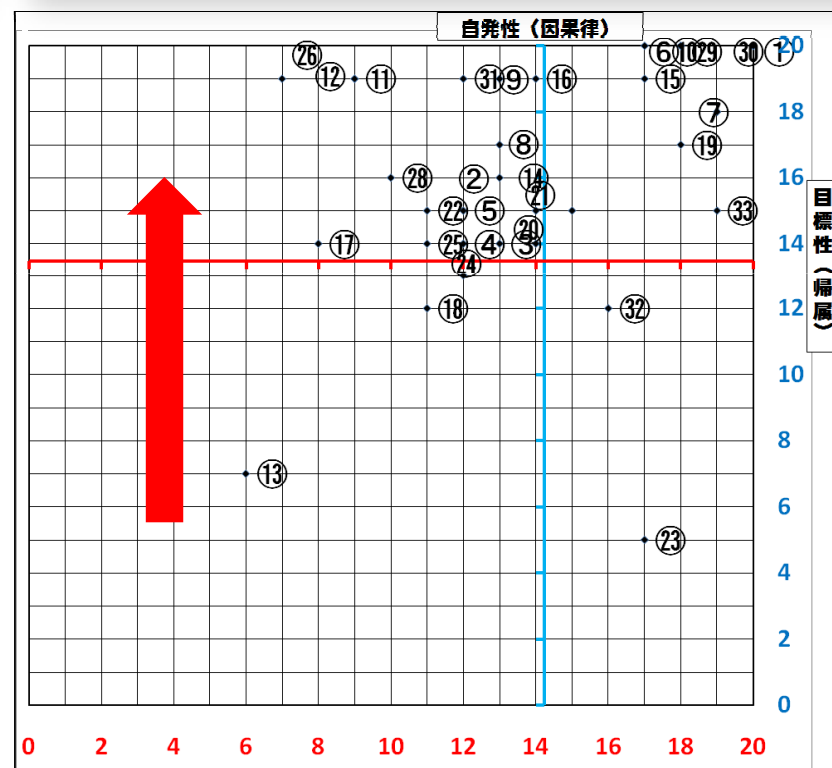
C

## 取組の評価

### 取組前



### 取組中



成果を目に見える形で表すことで、教師の意欲につなげる

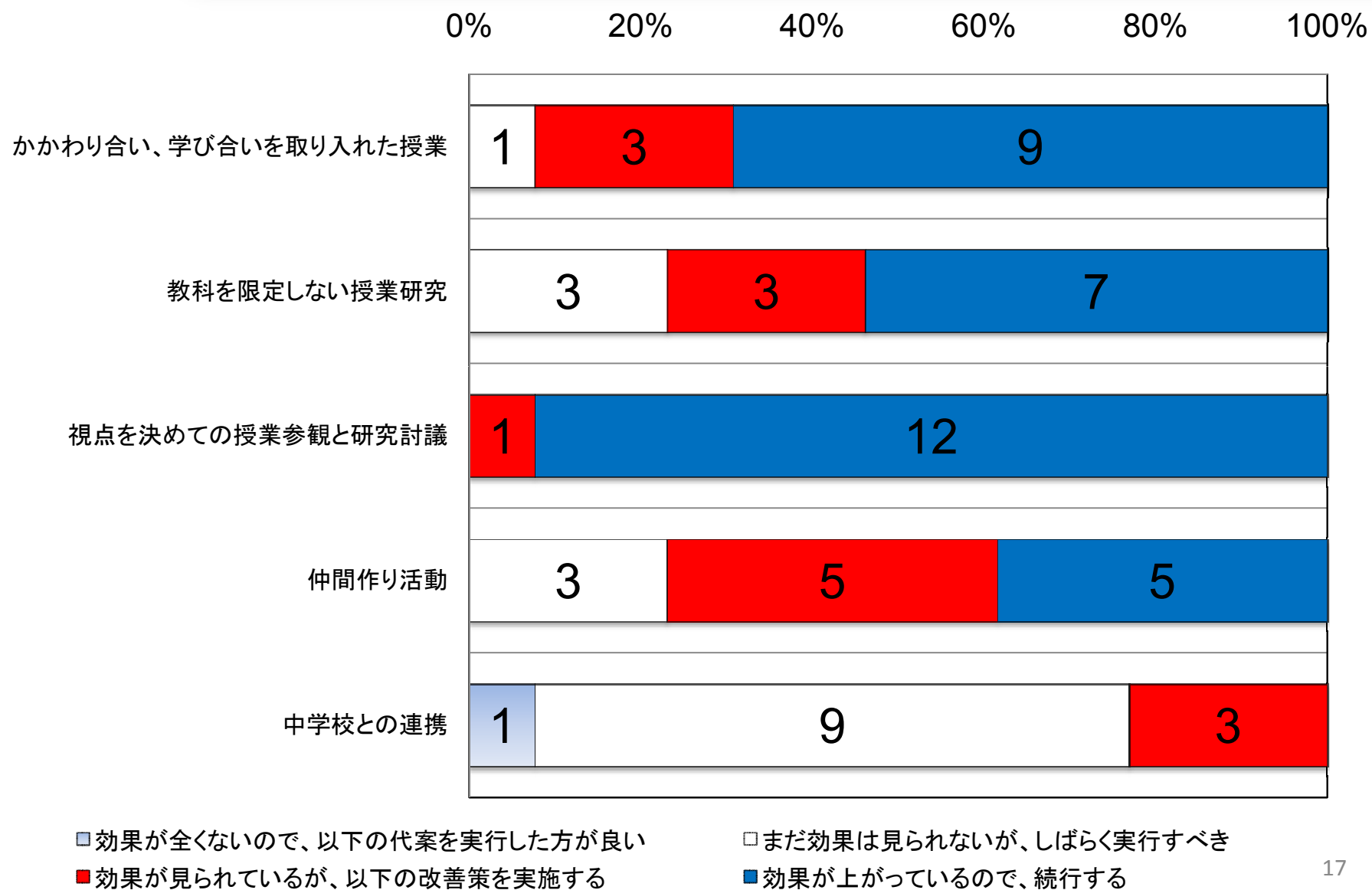
## C

## 取組の評価

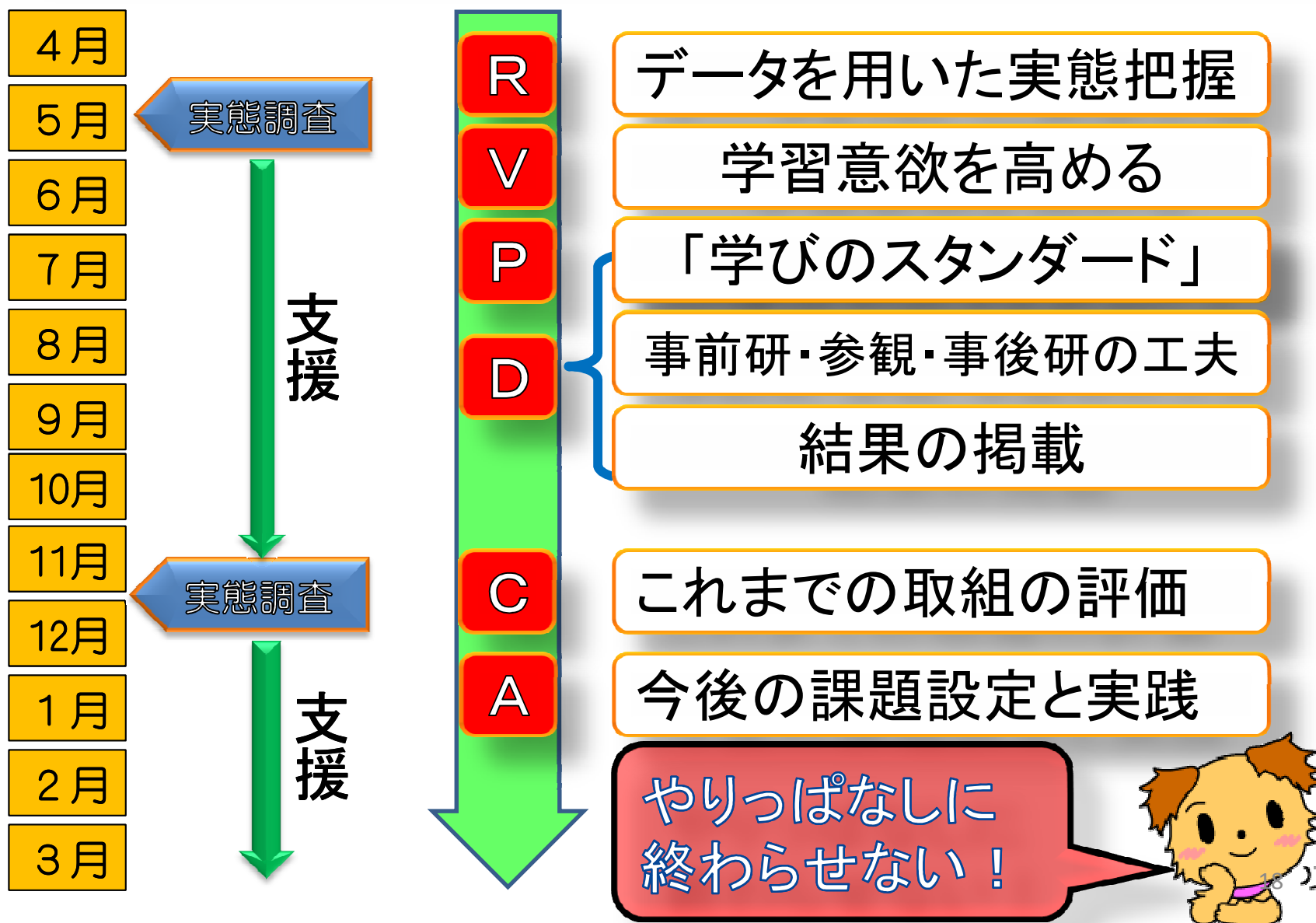
| 項目                 | 1                        | 2                       | 3                      | 4               |
|--------------------|--------------------------|-------------------------|------------------------|-----------------|
| かわり合い、学び合いを取り入れた授業 | 効果が全くないので、以下の代案を実行した方が良い | まだ、効果は見られませんが、しばらく続けるべき | 効果が見られているが、以下の改善策を提案する | 効果が上がっているので、続ける |
| 教科を限定しない授業研究       | 効果が全くないので、以下の代案を実行した方が良い | まだ、効果は見られませんが、しばらく続けるべき | 効果が見られているが、以下の改善策を提案する | 効果が上がっているので、続ける |
| 視点を決めての授業参観と研究討議   | 効果が全くないので、以下の代案を実行した方が良い | まだ、効果は見られませんが、しばらく続けるべき | 効果が見られているが、以下の改善策を提案する | 効果が上がっているので、続ける |
| 仲間作り活動             | 効果が全くないので、以下の代案を実行した方が良い | まだ、効果は見られませんが、しばらく続けるべき | 効果が見られているが、以下の改善策を提案する | 効果が上がっているので、続ける |
| 中学校との連携            | 効果が全くないので、以下の代案を実行した方が良い | まだ、効果は見られませんが、しばらく続けるべき | 効果が見られているが、以下の改善策を提案する | 効果が上がっているので、続ける |

C

## 取組の評価



# 支援サイクルに基づいた研究の取組



## 今後の方向性

# 自ら楽しく学ぶ子を育成するための基盤づくり



さて、おさらいです。この前、実施したプロットの形は、ある程度先生方は把握できていると思いますが、大切なのは、「Q-U」のプロット（結果）によって、対応策は違ってくるということです。

医者で言うと、レントゲンの結果によって、処置が異なるのと同じことです。この対応策は大きく2つに分かれます。それは、現状分析から、



- ①個人に対しての対応
- ②全体に対しての対応

①については、特に左下のプロットに位置された児童に行う必要があります。この児童には、まずじっくりと話を聞き、気持ちを受け止めるなどの対応が必要です。場合によっては、担任だけでなく、教職員チームで対応することも出てきます。その点において、今後、個別対応の場合のガイドラインが学校に整備される必要があると思います。（これは、人権部かな？それとも特別支援の役割かな？）

そして、②です。よく「Q-U」のプロットを見ると、個別対応が必要な児童が目がいきがちですが、重要なのは②の方だと私は思います。

全体を右上に引き上げることによって、①の児童も上がっていくのです。だから、両者は同時に進めていく必要があります。

②については、プロットの結果によって、取り組み活動が違ってきます。右図にカラーで

4 学級集団の現状の分析から・・・人間関係づくりのタイプ別対応のポイント

① 満足型の学級：＜ルールとリレーションの確立した統制的な学級集団＞

- 不安や悩みなど自分の内面について自己開示し辛い、自尊や自信を失いやすくなるようなエクササイズ。
- テーマや条件によって、メンバーで役割分担をもち、協力し合いながら達成するエクササイズ。
- 役割分担のしつこくやるエクササイズ。

② 管理型の学級：＜リレーションの確立がやや弱い学級集団＞

- 2～4人程度の小グループから始める。
- 子どもたちの関係性を観察し、教師がグループを作る。
- ゲーム性の高いエクササイズから始める。
- 自己表現の場を提示し、自己開示しやすくする。
- グループでワークシートを使って話し合うエクササイズを。

③ 放任型の学級：＜ルールが確立がやや弱い学級集団＞

- 2～4人程度の小グループから始める。
- ルール、条件、やることなどがはっきりして、自由範囲の範囲が広いエクササイズ。
- ルールを視覚的に示す。
- グループでワークシートを使った「いいところ探し」を、かわりあいの役割を、それに従って活動させる。

④ 放任型の学級：＜ルールとリレーションの確立がともに弱い学級集団＞

- ワークシートを使って話し合いの場からスタート。
- 対応していない、マイナスを土台から取り除くことでグループ化させる。
- インストラクションは明確に示す。
- 10分程度の短い活動時間を多く取り入れる。
- ジェスチャーシートに書き込ませ、教師が紹介する。

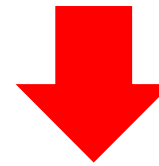
⑤ 破壊した学級：＜ルールとリレーションが壊れた学級集団＞

- 子ども同士が関係が壊れる。
- 一人でできるワークシートを使ったエクササイズを。
- 〇×法、演習など簡単なエクササイズを。
- マイナスの場面に陥っている時は、エンカウンターはしない方がよい。「こうしたい」という気持ちがあれば、エンカウンターをやる必要はない。

駄目！どれも使っては

たくさん紹介されていますので、夏休みなど読んでみて欲しいと思います。そして、9月からの「仲間作り活動」等に活かして頂ければと思っています。

## Q-Uの実施(5月)

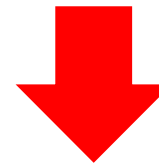


## 各学年の実態を把握



## 仲間作り活動

- ①心の冒険教育(協力活動)
- ②エンカウンター(受容感)
- ③ソーシャルスキル(ルール作り)

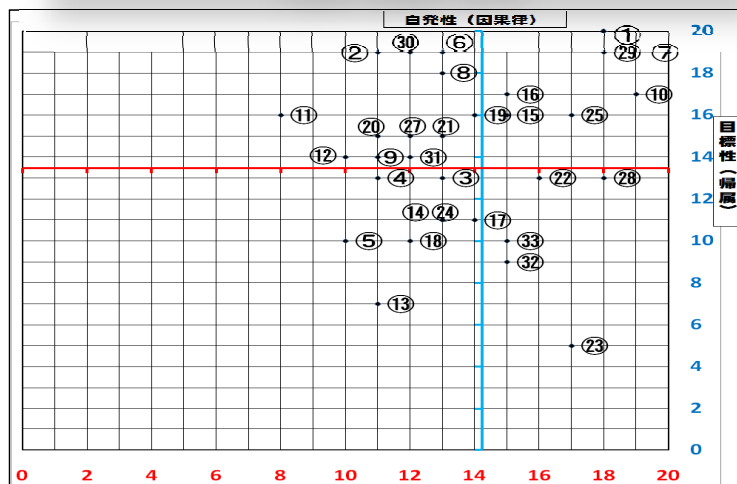


月2回、上記3つのツールを用いた仲間作り活動を実施

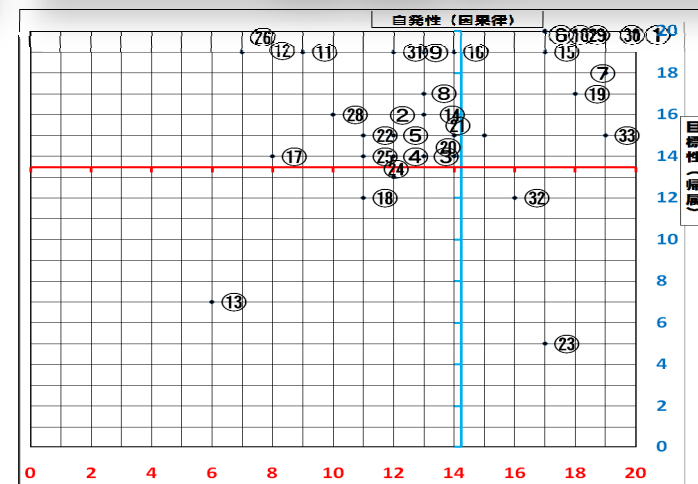
今後の  
方向性

# 日々の実践の中での「学び合い」の継続性

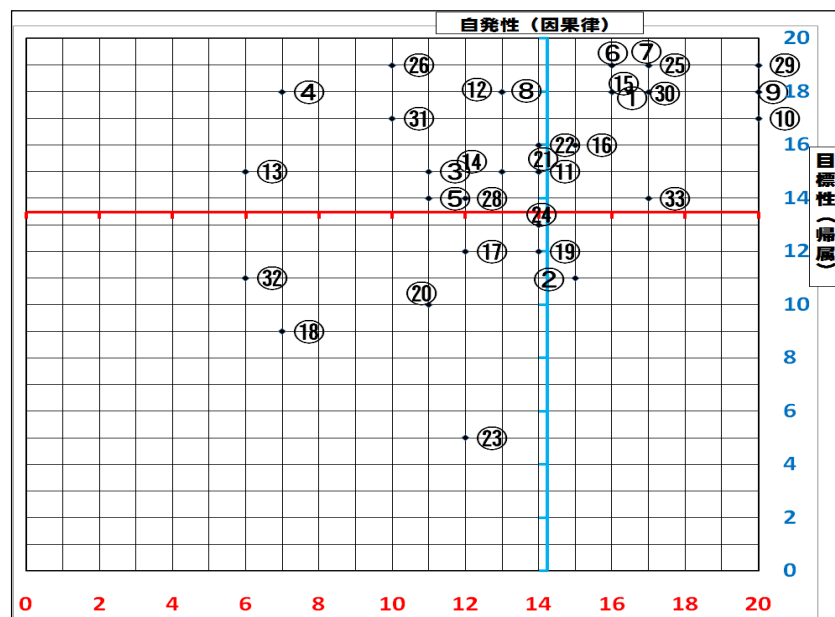
取組前



取組中



取組後



継続した取組の  
必要性

今後の  
方向性

## 先進校視察からの実践モデルの確立（今年度）

東北方面（2名）

首都圏方面（2名）

関西・中四国方面  
（2名）

九州方面（2名）

保小連携

小中合同授業研究

**ご静聴ありがとうございました。**

「学び合い」の授業風景

学校応援団による放課後体験教室